

## 連結財務諸表(要旨) 単位:百万円、単位未満切り捨て

### ■ 四半期連結貸借対照表

科目	期別 当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	前第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
流動資産	14,545	14,236	13,946
固定資産	10,156	10,013	9,847
資産合計	24,701	24,250	23,344
流動負債	2,449	2,184	2,115
固定負債	1,028	1,042	1,054
負債合計	3,477	3,227	3,170
純資産合計	21,223	21,022	20,173
負債純資産合計	24,701	24,250	23,344

### ■ 四半期連結損益計算書

科目	期別 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	5,904	5,346
売上総利益	1,870	1,560
販売費及び一般管理費	1,437	1,333
営業利益	433	227
経常利益	462	274
税金等調整前四半期純利益	462	277
四半期純利益	252	102

### ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	460	665
投資活動によるキャッシュ・フロー	△840	△646
財務活動によるキャッシュ・フロー	△77	△50
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,076	2,530

## 決算のポイント

### 貸借対照表

当第2四半期末の総資産は247億1百万円となり、前期末から451百万円増加しました。流動資産は、売上高の増加に伴って未収入金が増加したこと等により、前期末から309百万円増加しました。固定資産は、不二電子工業の千歳工場新築に伴って建設仮勘定が増加したこと等により、前期末から142百万円増加しました。一方、負債合計は、材料等の買掛金が増加したこと等により、前期末から250百万円増加しました。純資産は、利益剰余金が増加したこと等により、前期末から201百万円増加しています。

### 損益計算書

売上高は電子機器用の金属プレス部品や自動車に搭載するセンサー用の基幹部品等の成形品が伸長し、前年同期から558百万円の増加となりました。採算性の良い製品の販売が好調に推移したため利益率も改善し、四半期純利益は前年同期から149百万円増加しました。

### キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は前期末から449百万円減少しました。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により、460百万円増加しました。投資活動によるキャッシュ・フローは、不二電子工業の新工場用地取得等により、840百万円減少しています。

### ■ 株式の状況

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	3,418名

### ■ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の 本店および全国各支店で行っております。

### 株式会社精工技研 広報課

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401(直通) FAX 047-388-4477

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB http://www.seikoh-giken.co.jp



# 株主通信

第44期 第2四半期事業報告  
平成27年4月1日~平成27年9月30日

## ごあいさつ

平素は当社に対しまして格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

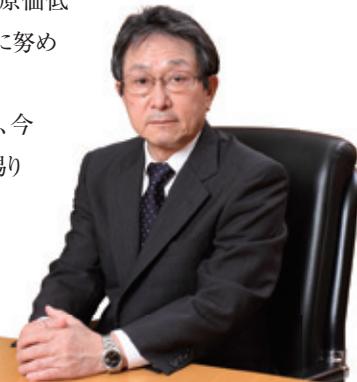
当第2四半期連結累計期間、電子機器向けの金属プレス成形部品の販売が好調に推移して損益を押し上げ、期初に公表した通期業績予想を上方修正いたしました。

第3四半期以降は市場の不透明感はあるものの、引き続き受注拡大と原価低減に取り組み、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

上野 昌利



より詳細な情報については  
IRサイトにて決算短信などを  
ご覧ください。

<http://www.seikoh-giken.co.jp/>

# 業績ハイライト

## 当第2四半期の業績

当第2四半期連結累計期間の当社グループは、経営基盤の強化を睨み、成形ビジネスの拡大に向けた取り組みに引き続き注力しました。

精機事業はこれまで、金型の販売を主力事業としておりましたが、現在では金型技術を活かして、精密・微細成形品を販売するビジネスへの転換を図っています。当期は本社に新たな成形機を導入し、成形品の本格的な量産を開始しました。展示会やホームページを通して、成形品の引き合いも増加しています。

また、自動車や電子機器向けの成形品販売が好調な子会社の不二電子工業との間では、本社で製造した金型を不二電子工業に供給する一方、不二電子工業に蓄積された豊富な量産成形技術やノウハウを本社が吸収する等、両社のシナジー創出に向けた動きを加速させました。密なコミュニケーションを通して人と情報の流通を活性化させ、そこから新しい付加価値を生み出す取り組みに注力しました。

こうした結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、精機関連、光製品関連の両セグメントにおいて増加し、5,904百万円（前年同期比10.4%増）となりました。採算性の良い製品の販売が好調に推移したことに加え、生産工程の一部自動化や調達コストの削減等に努めた結果、原価率が改善し、営業利益は433百万円（前年同期比90.9%増）、経常利益は462百万円（前年同期比68.1%増）、四半期純利益は252百万円（前年同期比146.0%増）と、前年同期から損益を改善することができました。



## 通期見通しについて

当第2四半期連結累計期間は、採算性の良い製品の販売が好調に推移したことから、売上、利益共に期初に公表した業績予想を上回ることができました。

第3四半期以降につきましては、不安定な海外金融情勢や中国をはじめとする新興国経済の停滞といった懸念材料がありますが、車載用成形品や光伝送装置等の販売は引き続き堅調に推移することが予想されます。こうしたことから、平成28年3月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

<本年5月発表の当初予測と11月発表の修正予想>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
当初予想	12,170	700	720	330	35.94
修正予想	12,170	800	840	420	45.69
当初予想との増減額	0	100	120	90	—
増減率 (%)	0	14.3	16.7	27.3	—

## 不二電子工業 千歳新工場建設中

当社グループの不二電子工業は、自動車のエアコンの冷媒やエンジンの燃料圧力等を調整するセンサー用部品の量産工場を、北海道千歳市に新築中で、平成28年3月に完成します。8月から月産70万個の量産を開始し、平成29年度には月産160万個まで引き上げる予定です。



## 当第2四半期(累計)の事業別概況

### 精機事業 精密金型/精密成形品/レンズ



最高水準の金型技術をベースに、難易度の高い成形品ニーズに応えます。

精機事業は、金型販売から精密成形品販売へとビジネスモデルの転換を図っています。当期は、スマートフォンや薄型ノートパソコンのキーボード向けに金属プレス成形品の販売が好調に推移しました。また、車載用センサー部品やスマートフォンのカメラ用高耐熱レンズも堅調に売上を伸ばすことができました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,657百万円となりました。



### 光製品事業 接続部品/光部品/製造機器



光通信ネットワークの高速・大容量化を支える高精度な技術・製品を提供します。

流通する情報データ量の急増に対応するため、世界で光通信網の敷設が進み、光通信用部品の需要は増加基調にあります。一方、市場で大量に使用される汎用的な光通信用部品は価格の下落が恒常的になっています。当期は地上デジタル波の送受信設備の置き換えに伴い、光伝送装置の需要が増加しました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,247百万円となりました。



※四半期(当期)純利益は親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益を記載しています。